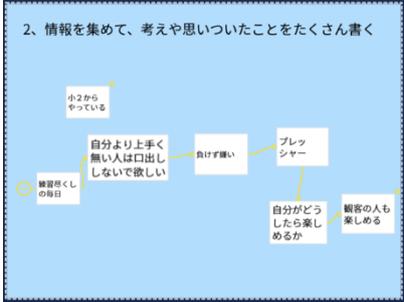
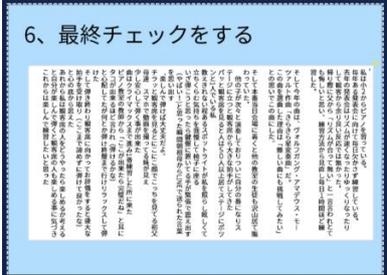


1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	岡山大学教育学部附属特別支援学校	指導者名	濱田 曜 辻本 汐里
実践場面 (教科名)	生活学習 (国語科)	単元・題材名	エッセイを書こう
学習目標・ねらい	複数のテーマの中から自分が書きたい内容を選び、考えを整理しながらエッセイを作ることができる。		
対象児童生徒の 実態	知的障害部門 高等部 1～3年		
	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割りで取り組んでいる学習 (8名) ・どの生徒もアプリケーション『ロイロノート』の使い方を理解していて、かな入力やローマ字入力で文章を記入することができる。 ・教師や友達と言葉でやり取りをすることができるが、自分の考えを整理して伝えることが難しい生徒がいる。 		
活用の概要			
(学習活動の流れ)			
<p>(1)エッセイについて知る アプリケーション『ロイロノート』の配信機能を使って、エッセイについて説明をする。エッセイのイメージをもつことができるように、教師が書いたエッセイや、同年代の人が書いたエッセイと一緒に読んだ。</p>			
			
<p>(2)エッセイの書き方について知る</p> <ol style="list-style-type: none"> ①分野を決める ②情報を集めて、考えや思いついたことをたくさんカードに書く ③②で書いたことをまとめる ④文章で書く <p>上記の流れで取り組んだ。②については、自分の思いを整理することができるように、情報や考えを出した後にカードを繋げる活動を設定した。内容が思い浮かばない生徒に対しては、テーマを決めた後、「〇〇をして嬉しかったこと、悔しかったこと」等、具体的な問いを記入したカードを生徒のタブレット端末に送信した。</p>			
			
エッセイ作りで用いたカード			
<p>(3)エッセイを書く</p> <p>整理した情報を基に、文章を書いた。最終確認をする時は、読み手を意識することができるように、行内の文字数を決めて、句読点や改行を一緒に確認した。</p>			
<p>・夏休みには、分野や文字数を設定せず、エッセイ作りを宿題として出した。好きなことや夏休みの思い出等、様々なテーマでエッセイを作ることができていた。</p>			
		<p>タブレット端末に入力している場面</p>	
			
		<p>最終確認で文の整理をしたエッセイ</p>	
成果や活用の ポイント ・ 課題、改善点 等	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使うことで、自分の考えをたくさん入力したり、繰り返し文体を修正したりすることができる生徒もいた。修正については、手書きで記述をするよりも抵抗が少ないように感じた。 ・原稿用紙での作成ではなかったため、実際に清書をすると文字数制限を超えてしまうことがあった。 		